読んだ読んだ「盆土産」読み取りの足跡

一組　三場面

主人公は、いきなりの知らせで帰ってきた父親の土産に何度もびっくりさせられた。父親の土産は、すべて知らないものばかりだった。土産の「えびフライ」の大きさに驚いた二人に、父親はうれしそうだった。自慢げに話す父親が珍しく冗談を言ったので、家族がそろったうれしさと。あり得ないような話をする父親に、思わず笑ってしまった。

永井君

主人公は、父親が新しいハンチング帽をあみだかぶりにして帰ってきたため、いつもと変わらないと思った。でも、父親の額が生白い色だったことに気づき、頭を守るためにあみだかぶりにせず、一生懸命がんばっていることが主人公には伝わった。父親が土産として買ってきたえびフライの上にはドライアイスがあり、それも土産の一つかと思った。そのドライアイスにはびっくりさせられてばかりで、父親に対して「何でこんなものを買ってきたのだ」と思った。しかし、ドライアイスがえびフライを冷やすためにあり、ドライアイスが土産ではないことを知った主人公は、父親の優しさに心を打たれた。久しぶりの父親との会話にうれしさが入っていて、父親が言うことは何でも冗談だと思っている主人公は、えびフライよりも大きいえびがいることにびっくりして、つい笑ってしまった。

小川さん

主人公は、「えびフライ」のためにずうっと寝ずにいてくれた父親にすごく感謝しているが、海でとれたえびといわれ、「海って何」って思っているところに、もっとでかいえびもいると言われ、そんなあ、いるわけないじゃんと思ってつい笑ってしまった。

和田さん

主人公は、父親が帰ってきてくれて、本当にうれしかった。父親の土産のえびフライは六尾あったので、家族全員のことを表していると思う。そのえびフライを父親は、大切に持って帰ってきたから、それだけ家族のことを思っていると分かる。そのことに安心した主人公は、父親が言った冗談に、つい笑ってしまった。

竹本さん

主人公は、自分の額の色を変えるくらい仕事をがんばってくれている父親が帰ってきて、安心している。家族思いの父親が持って帰ってきた土産を、待ちきれずに土間の上がり框で開けたら、急に白い煙のようなものが出てきてびっくりしたが、それがドライアイスというものだと知り、自分たちのためにえびフライを冷やし続けるために眠りを寸断してでも見ていてくれた父親に感謝している。父親が言った本当のことを冗談だと思い、父親がいることにほっとして、つい笑ってしまった。

古澤さん

主人公は、初め、父親の額が真っ白だったのにびっくりしていた。土産をもらうときに土間の上がり框で開けてしまったのは、えびフライの正体を一秒でも早く知りたかったからだ。えびフライの大きさにもびっくりしたが、ドライアイスのこともびっくりしていた。父親は、家族のためにドライアイスを使い、眠らずに持ってきてくれたので、優しいなと思う。もっとえびには大きいのがいることを知らなかった少年は、父親が言った話を冗談だと思って笑ってしまった。その少年につられ、父親たちも笑顔になり、笑ってしまった。

浅野さん

主人公は父親の額の日焼けのしかたを見て、それだけ父親が自分たちのために一生懸命仕事をしているんだなあと、うれしく思った。土産の中に入っていたドライアイスに主人公は父親が本当に優しい人だと改めて感じた。主人公と姉がえびフライを見てすごくうれしそうにして、そして驚いてくれて、父親は満足そうだった。父親が珍しく冗談を言ったときは、主人公はうそだと思ったし、父親が笑わせようとしているのだと考えた。でも、本当は、会えなかったはずの父親と会うことができ、話せたことが何より一番うれしかったから、思わず首をすくめて笑ってしまった。

近藤さん

主人公は、父親が自分の流儀があっても仕事場のルールを守って安全に仕事をしていることが分かって安心している。主人公は、最初、ドライアイスのことを砂糖菓子のような固まりと言っているから、土産の一つと勘違いしている。父親は、主人公のためにえびフライをおいしい状態で食べてほしいから、眠りを寸断して冷やし続けたことから、父親の優しさが分かる。主人公は、えびフライがどんなものか分かって安心し、父親の話を冗談だと思って笑ってしまった。

荻巣君